

1. 応募の動機・理由

「衣・食・住」は私たちの生活を支える土台である。しかし、テレビや雑誌で取り上げられることが多い「衣・食」に比べて住まいのことは中学生の子どもたちにも情報が届いていないように思う。そこで、将来の住まいの主体となる子どもたちが、①安全な住まいの工夫、②世界に誇れる日本の建築、③住まいと照明、④あなたの住まい(部屋)を灯すオリジナルの照明器具(住まいを豊かにするインテリア)の製作等の学習を通して住まいの意義を感じ取り、自ら考える力や情報を身につけさせることをねらい、この題材を設定した。最終的には1階建て住宅(図面)と越前和紙で作るランプシェードを製作し、生徒が仕上げた作品などから、一連の学習で身につけた学力が読み取れるような内容にしていきたい。生徒ひとりひとりが、建物の鑑賞やインテリアの製作をきっかけとして「住まい・まち学習」に興味・関心を持ち、身につけた知識を生かして将来の住まい方をよりよい方向に変えていけるように、「住まい・まち学習」の充実に努めていきたい。

2. 学習予定の概要

A. 中心となる活動

・日本が世界に誇れる建物のスライドや動画をもとに、想像力を働かせながら、建築美や建築技法を鑑賞する活動を展開する。学習を通して、主体的に建築美や建築技法、耐震の工夫などをまとめ(各自)、自分なりの考えを持ってプレゼンテーションできるようにする。お互いのプレゼンテーションの内容を評価し合い、ワークシートにまとめる。

・住宅の1階を設計した後、自分が描いた住まいの設計図を捉えながら、「あなたの住宅を灯すオリジナルの照明器具」をテーマに1人1個のランプシェードを製作する。自分が設計した住宅のイメージを追求してインテリアを製作できたかを自己評価し、設計図と製作した照明器具を関連づけて発表する。

B. 授業の狙いと特徴

・住まいにこめた建築家の思いやまちづくりへの理解を深めさせることをねらい、夏期休業中に福井市にある隈研吾氏の建物を鑑賞する課題を出す。隈氏はイタリアの駅やミラノ万博の日本館の建築デザインを手がけた建築家でイタリアに最も影響を与えた8人の中に日本から唯一選ばれた。身近にある隈研吾氏の建物を実際に鑑賞することで、そのよさや美しさを感じ取る機会とし、将来の住まい方に生かしていけるようにする。

・住まいへの興味関心を高めるため、「将来住みたい家」の設計(1階平面図)を行った後、住まいを照らす照明器具の効果を、至民中学校の建物を使って、協働学習する。照明の工夫や自然光をふんだんに取り入れた至民中学校の建物が潤いやリラックス感といった心理的効果もあることを、ディープランニングする。さらに、地場産業の越前和紙で自分の住まいを照らすランプシェードを製作することにより、住まいを自らの手で工夫し、生活を豊かにする力を身につける。

C. 学習の流れ(指導計画)全12時間

・第1次<安全な住まいの工夫>…2時間

ここでは阪神大震災の実録DVDを見て、被害の大きさを学習する。方眼厚紙を使って四角柱や円柱を作り、それらを組み合わせて、住宅模型を作る。その上におもりをのせて、自分たちが実際に作ったものがどれくらいの重さに耐えられるか、グループで実験する。次に、模型の骨組みに一本斜めに木を入れるだけで家が頑丈になることを知り、安全な住まいを作るための工夫を体験的に学ぶ。発展的な学習として、耐震に優れているという五重塔の建築をもとに、建築に携わった人々の知恵や苦勞、耐震の工夫などを映像から学び、生活者としての課題を防災の視点から見つけられるようにする。

・第2次<世界に誇れる日本の建築>…2時間

ここでは「住まい」にこめた建築家の思いを理解させる。福井市には世界で活躍する隈研吾氏の建物が

ある。隈氏の自然木が連なって構成された建物は強烈なインパクトがあり、一步踏入ると心を揺さぶられたり、活力がわいたりする。これらの建物に共通しているのは国産の木材をモチーフにした空間を感じる力である。今回は、隈氏の建物のスライドや動画をもとに、想像力を働かせながら味わう活動を展開する。学習を通して、建築美や建物とまちが一体となるデザインを学び、自分なりの考えを持って評価する能力を育てる。建物の鑑賞は、本来その場を訪れ、その空間を五感で味わうことが必要不可欠である。そこで、発展的な学習として夏期休業を利用して、至民中学校から車で10分のところにある隈氏の建物を鑑賞する課題を前もって与えておく。

・第3次<住まいと照明>…2時間

ここでは身近な照明の種類やその効果を知ること適切な照明を選ぶ知識を身に付ける。最近では、照明自体に節電のための様々な工夫(リモコンで自由に明暗を微調整できる機能)が施されていることを知る。高齢者、乳幼児、障害者がいる家庭では照明の工夫が目の健康、事故防止、防犯、心理的効果もあることを協働学習する。発展的な学習として、5人家族の場合、どのように住むと節電になるか、「省エネで、家族が集まる快適な住まい方」をテーマに部屋の間取り図を見ながら考える。グリーンカーテンやブラインドの効果、住まいに光を取り入れることで節電対策にもなることを学習する。

・第4次<あなたの住まい(部屋)を灯すオリジナルの照明器具の製作>…6時間

ここでは住宅の1階を設計した後、「あなたの住まいを灯すオリジナルの照明器具」をテーマに1人1個のランプシェードを製作する。製作に当たっては、地場産の越前和紙を使用する。越前和紙というのは素朴で人間味ある手すきの和紙で、世界的にも有名な福井の伝統産業である。色や模様も様々である越前和紙を使って、その持ち味や特徴を大切に、個性的なランプシェードが完成できるようにする。自分が設計した住宅のイメージをとらえながらインテリアを製作する力が身につくようにしたい。発展的な学習として「照明」が住宅の中で人々に与える潤いやリラックス感といった精神面に及ぼす効果にも注目させたい。

3. その他特記事項

・「食」に地産地消があるように、「住」にも地産地消があることをふるさと福井の越前和紙を使ったランプシェードの製作を通して気付かせたい。